

すなお

令和4年1月号

おやのことば

皆んな心という理がありて一
つの道、道がありて心、一人
でもこうと言えば、十分心に
乗って守護する。

明治三十年二月十九日



ノミの話に戻りますが、コップの高さまでしか跳べなくなったノミは、いったいどうすれば元に戻るか。自分の体の50倍、100倍跳ぶノミのなかに入れたら、すぐに跳べるようになるそうです。私は、これが教会だと思います。教会へ行けば、自分の粹や殻ではなく、神様を目標に歩んでいる人たちがいます。その人たちは、いわば50倍100倍跳んでいるノミの仲間です。そこへ入ることによって、すぐに自分も跳べるようになる。これが教会だと思うのです。また、そんな教会でありたいと思います。



新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願います。

昨年末は全国的にコロナの感染者もずいぶん少なくなりましたが、現在は全国的に感染拡大をしていて今後しばらく行動規制がかかりそうです。元旦祭は皆さんに集まっていたか賑やかにつとめさせて頂きました。したが、今後のおつとめはどうなるだろうと思案してまいりました。今月は春の大祭をつとめる意義深い月だということに今更ながら気が付きました。教祖は命をかけてつとめを急き込まれました。もちろん、当時のことを知っている訳ではありませんから、聞かせて頂いた上での想像です。しかし、思いをもつて身を隠されたのが現実です。

今の私たちが置かれている状況とは明らかに違います。普段何の心配もなくさせて頂けるおつとめがどれほどありがたいことだったのかとつくづく感じます。そして、これからどんな思いでおつとめをつとめさせて頂くかが、この節目を通して変わっていかなくてはならないことと思います。

ふしがあればこそ深く味わい、深く思案もさせて頂いただけだと思います。まだまだ思案を重ね、親神様、教祖に喜んで頂ける心の成人をさせて頂き、そしておつとめの実行をさせて頂きたいと思っています。

会長

すなお (立教185年1月号)

通巻 No.738
発行所 天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
☎ 0898-23-5004
FAX 0898-23-5123
発行日 2022.1.16
責任者 二宮英治



神様にもたれて

椿 信代

先日、2年ぶりに夫婦で教会へ帰りました。コロナ前の2020年に結婚前の挨拶で来た以来の里帰りでした。

今年は年明け早々から将来のことで悩んだり夫婦の課題にぶち当たっていて、夫と共に今のままじゃだめなのかと悶々とする日々が続いていました。

そんな中で教会に帰り神殿で参拝をした時、柏手を打つ度にずっと心の重りが消えるような、不思議と気持ちが軽くなった気がしました。まさに今悩んでいることに対して教祖から先案じはせんでええと言われたような感じです。今までも先のことを考えすぎてしんどくなった時、「人間の力でどうにもならないことは神様にもたれなさい」と何度も聞かされてきました。私の悪い癖で考えすぎてしまうところを今回思い出させてくださったような気がします。

また夫も天理教のことは深く理解はしていませんが、帰る頃には晴れやかな表情になっていました。短い時間でしたが帰ることができて良かったです。

今年は夫婦ともに神様にもたれる心で通らせていただきたいと思います。

ノミのジャンプ

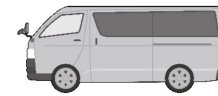
深谷 善太郎著～だけど有難い～より転載

ノミという虫がいます。先日、この虫にまつわる面白い話を聞きました。

ノミというのは非常に小さいものですが、自分の体の50倍から100倍くらいジャンプするのです。すごいですね。そのノミを、コップを裏返して中に閉じ込めてしまうと、当然、高く跳ぶことはできません。どうなるかというと、コップの底に当たって落ちるを繰り返すのです。そして、そのままにしておくと、コップを外しても、その高さまでしか跳べなくなるそうです。

人間も、神様から授かった能力は無限でも、嫌なことやつらいことがあると、自分で「これが限界」と杵や殻を作って、コップのなかのノミのように、そこまでしかジャンプしなくなることがあるのではないのでしょうか。

私は、病気や事情は、私たちが自分で「もうここまで」「自分の能力はこんなもの」と決めてかかっている壁を突き破るチャンスとして、親神様が与えてくださっているのではないかと思うのです。病気になったら、普段は当たり前前にできていることができなくなると考えがちですが、心の持ち方によっては、普段できないことができるようになる。私は、それが「ふし」だと思うのです。～中略～（次ページへ）



教会の車両入れ替えのお願い

松浦直人

元旦祭の際に、ご参拝頂いた皆様にお願いをさせて頂きましたが、改めて「すなお」の紙面をお借りして、皆様にお願いがございます。

現在、会長様が教会の御用に長くお乗り頂いているキャラバンですが、かなりの年数が経過しており、入れ替えを検討しなければならない時期にまいりました。初年度登録が平成18年（2006年）9月ですので、約15年もお乗り頂いており、走行距離も30万k mを超えています。タクシーや長距離トラック並みの走行距離です。

これまで、瀬戸路の理を毎月々々上級の葛城に、そして大教会、ご本部へとお運び頂き、また、信者さん宅の講社づとめ、そしてバンド活動時の楽器搬送等々、長年に渡って様々な場面で活躍してきたキャラバンですが、経年劣化も激しく、だいぶくたびれてきています。会長様には、大切にそして綺麗にお乗り頂いてまいりましたが、いよいよ入れ替えの時期が迫ってまいりました。今日、明日にすぐに壊れて乗れなくなるわけではありませんが、これからも長く教会の御用を安心しておつとめ頂けるように、新しい車輛を購入させて頂きたいと思います。

つきましては、車輛入れ替えのための積み立てを行いたく皆様にお願い申し上げます。目標金額は300万円。積み上がり次第終了といたしますが、期間は1年を目安としてつとめさせて頂きたく思います。

日々、月々のお供えとは別に、車輛入れ替え用のお供え袋を教会に準備して頂きますので、皆様の真実のお運びを伏してお願い申し上げます。よろしくお願いいいたします。

教会ニュース

元旦祭をつとめるにあたって、大勢の皆様より海山野の幸の御供物、現金での御供を頂きました。真実の御供物を山盛りにさせていただく事が出来て親神様、教祖、霊様にはさぞかしお喜び頂けたと思います。本当にありがとうございました。